

## Peripheral Artery Surgical Meeting 2008

－うまくいかなかった症例，工夫した症例－

日時： 4月17日（第36回日本血管外科学会総会 第1日）16:40-17:40

場所：アルカディア 市ヶ谷 第5会場

会費：1,000円

コメンテーター：Dr. Chaui (Vascular Surgery, Helios kliniken GmbH, Germany) Masato Nakamura (Cardiology, Toho Medical School)

座長 小倉記念病院外科 三井信介先生  
金沢医療センター 心臓血管外科，遠藤将光

### 演題 1

Le Maitre弁カッターによる内膜損傷が原因と考えられた大腿-腓骨動脈バイパスグラフト瘤の1例

熊本市民病院 外科，山下裕也

### 演題 2

Reversed saphenous vein graftを用いたdistal bypassの一例

東京大学血管外科 重松邦宏

### 演題 3

足部膿瘍、敗血症を合併したBuerger病に対する、in situ大腿-腓骨動脈バイパスの1例

日本大学板橋病院血管外科 前田英明、梅澤久輝、五島雅和、服部努、中村哲哉、小林宏彰、高坂彩子、河内秀臣、根岸七雄

担当世話人：遠藤将光（金沢医療センター 心臓血管外科）

## Peripheral Artery Surgical Meeting の発足について

従来、本邦のPeripheral Artery Disease(PAD)に対しては血管外科医が診断から治療まで携わってきた長い歴史がありますが、近年、この分野に循環器内科医や放射線科医等が参入し血管内治療が盛んに行われるようになりました。私共も低侵襲の血管形成には魅力を感じており、腸骨動脈には第一選択、大腿以下には厳格な適応で施行してまいりましたが、外科と内科で意見の食い違いが少なからずあるように感じます。

特に下腿以下の病変に対する認識の相違が大きく、残念ながら内科医にdistal bypassの有用性が充分には認知されていないのが現状です。その理由として、特定の施設では欧米をも凌ぐ素晴らしいdistal bypassの成績を示していますが、一般の「心臓血管外科」施設ではきちんとしたdistal bypassができる血管外科医が少な過ぎるのではと考えております。

そこで、血管外科の原点に戻り皆でdistal bypassを勉強する会を作りたいと考えました。外科手術の修練は他人の発表やビデオを見たくらいでは成されないでしょうが、一歩でも前進すればとの思いで、この会を発足させた次第です。

皆様には今後もこの会にご参加いただき、会の方向付けを含めた幅広いご意見を賜れば幸甚に存じます。

### 顧問

|                |           |       |
|----------------|-----------|-------|
| 東京慈恵会医科大学      | 血管外科 教授   | 大木 隆生 |
| 愛知医科大学         | 血管外科 教授   | 太田 敬  |
| 名古屋大学医学部付属病院   | 血管外科 教授   | 古森公浩  |
| 旭川医科大学         | 第一外科 教授   | 笹嶋 唯博 |
| 埼玉医科大学総合医療センター | 血管外科 教授   | 佐藤 紀  |
| 東京医科大学         | 血管外科 教授   | 重松 宏  |
| 日本大学医学部        | 心臓血管外科 教授 | 根岸 七雄 |

### 世話人

|              |            |      |
|--------------|------------|------|
| 東京医科歯科大学     | 外科・血管外科    | 井上芳徳 |
| 金沢医療センター     | 心臓血管外科     | 遠藤將光 |
| 東京医科大学       | 血管外科(第二外科) | 駒井宏好 |
| 東宝塚さとう病院     | 血管外科       | 渋谷 卓 |
| 名古屋第一赤十字病院   | 血管外科       | 錦見尚道 |
| 日本大学医学部      | 心臓血管外科     | 前田英明 |
| 小倉記念病院       | 外科         | 三井信介 |
| 東京大学         | 血管外科       | 宮田哲郎 |
| 名古屋大学医学部付属病院 | 血管外科       | 山本清人 |

(2009年5月1日現在、五十音順敬称略)